キャラクター名
火村 有栖

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ ハヌマーン	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	格闘家
オプショナル	オルクス	年齢	19	性別	男
覚醒	死	衝動	吸血	初期侵食率	43 %
出自	疎まれた子 70	経験	平凡への憧れ 44	邂逅	同行者 57

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	0			4
感覚	2	0	0			2
精神	2	0	0			2
社会	1	0	0			1

HP	30
行動値	5
(非装備時)	6
戦闘移動	11
全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ダメージグローブ	白兵	7r+5	9	1		
三十三拳道・一打	白兵	7r+5		13+2d10		
三十三拳道・通貫	白兵	7r+5		8+2d10		
天壌人拳遍無窮	白兵	7r+5		13+2d10		装甲無視、ガード不可

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
スパイダージャケット	経験25	6	-2	-1	REC:玉野椿 常にガード値+8する

合計装甲：	6	合計回避：	-2

所持品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
強敵	P	N		
玉野椿	P 尊敬	N 疎外感		
両親	P 懐旧	N 嫌悪		
フレスヴェルグ	P 親近感	N 敵愾心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
一迅の風	1	(4)	常時	至近	自身	自動		
効果：	戦闘移動、全力移動を行ったラウンド中、ダメージ+[Lv*2]							
バックスタブ	2	(4)	常時	至近	自身	自動	リミット	
効果：	《縮地》を使用したメインプロセス中、白兵攻撃のダメージ+[Lv*5]							
かまいたち	1	2	メジャー	視界	単体	白兵		
効果：	ダメージ-5、射程視界化							
電光石火	2	3	メジャー	-	-	【肉体】		
効果：	ダイス+[Lv+1]個 ただしHP1d10失う							
バリアクラッカー	1	4	メジャー	武器	単体	白兵/射撃	80	
効果：	ガード不可・装甲無視 シナリオLv回							
コンセントレイト:ハヌマーン	2	2	メジャー	-	-	S		
効果：	C値-[Lv]							
縮地	4	2	オート	至近	自身	自動		
効果：	移動を行う時に使用できる。シーンの好きな場所に移動できる シナリオLv回							
軽功	★	-	常時	至近	自身	-		
効果：	壁などを自在に駆け回ることができる							
真偽感知	★	2	メジャー	視界	単体	RC		
効果：	対象が嘘を吐いているか見抜くことができる							
海の魔術師	★	-	メジャー	至近	自身	-		
効果：	水中を自在に泳ぎ回れる							
効果：								
効果：								
効果：								

健康的でさっぱりとした身なりだが、目付きの悪さや声の陰鬱さのせいで不良のように思われがちなUGNエージェント。別に口調が粗暴と言うわけではないのだが……
自分の体一つで戦うことを信条としていて、武器は使わない。瞬間的に体の動きを加速させ、手足を鞭のようにしならせることで衝撃波を発生させて、手足が届かない場所からでも攻撃できる。その動きが蛇のように見えることから、元々は"ヴァイパー"と呼ばれていた。しかし、"フレスベルグ"と戦うようになってからは北欧神話にあやかって"ニーズヘッグ"というコードネームになる

【詳細】
私生児として生まれた火村は実の父親のことを知らない。『有栖』という名前をつけたのは父親らしいので、ふざけた人間だろうと勝手に思っているし興味もない。
小学校くらいまで母親と再婚先の父親の三人で暮らしていたが、父親は火村に暴力的に接していた。名前のせいで女みたいだと小学校でも虐められていたのだが、自分と同じ名前の女子が時折助けに入ってくれた。
その時にはもう無気力で苦しいことは勝手に過ぎ去るのを待つだけで抵抗もしなかった火村だが、年下の癖に我も強ければ力もあったその女子に『自分を守るためには戦わなきゃダメよ。ここだけは譲りたくないって時に戦うために、わたし達には拳がついているんだわ』と言われた。お前ほど強ければな……とその時は思ったものの、それ以降その女子に武術を教わり始めたのは何かが芽生えたからかもしれない。
小学校卒業間近の頃、火村は早めの成長期に入って身長が伸び、体も大きくなった。筋肉もついていた彼に暴力を振るう人間はそのうちいなくなっていた。
ある時、火村は何となく帰り道で見かけた黒服の男が気になって後をつけた。彼は何故か、自分と同じ『アリス』という名前の後輩を監視しているようだったからだ。最近は助けられることもなくなり疎遠になったとはいえ、彼女への恩を忘れた訳ではなかった
人気がなくなった時、その男が背後から彼女を襲おうとした。火村はその寸前、彼女が気付く前に割って入り男を蹴倒す。そこまでは予想通りで、予想外だったのは男がナイフまで持っていたことだ。ようやく火村は彼が誘拐でも目論んでいたんだ、と言うことに気付いたがもう遅く、ナイフで腹を刺された火村はその場で殺された。
ただ――
ここだけは譲りたくない。真面目な人間が突然理不尽に晒されるのも、そういう誰かを助けられないまま死んでしまう自分も嫌だと憤激した。